

《日本の明日を寺社と共に。》

未来考創

寺社をテーマにした観光について
未来志向で取り組む人を訪ね、
日本の未来を共に考え、創造します。

行政と寺社観光

第1回

奈良県知事／荒井正吾氏

行政が周辺環境を整備し、
寺社が情操に訴えるコンテンツを提供する。
このタッグで観光を経験として記憶に残し、
再訪を促していきたい。

廣瀬 寺社をきっかけにした文化振興のあり方・進め方について、荒井知事はどのようにお考えでしょうか。

荒井 奈良県が寺社と共存共生していくためのポリシーは、寺社の周りに賑わいを作り、集客を考える。そして集まった人について「参り」を促すことです。平城遷都1300年祭では、無料のイベントをいくつも開催しました。すると県内の寺社は参拝者が増加、中には4倍に増えたところもありました。これは、例えばお寺が花を飾り、見に来た人が鑑賞後にお寺へ参拝するという、昔からあるビジネスモデルと同じです。今後もあるべく県が無料のイベントを開催し、奈良には素晴らしい寺社があります、と伝えていきたいと思っています。音楽関連のイベントも開催していく予定ですが、イベントの際、近隣寺院で実施される説法などを案内するようなことも進めたいですね。寺社にはお願いができないとお参りできない、と思

われる方が多いようですが、そうではありません。イベントなどアトラクションを楽しんで、「こんなに楽しい思いをさせてもらった」という感謝のお参りでもいいのではないのでしょうか。

それから、日本の寺社は山の麓にあることが多いものです。海から見たものを山の麓に祀ってきた、これは島国日本独特のメンタリテイです。その文化を体験してもらおうとすると、インフラの改善も考えないといけません。アクセスの整備はもちろん、例えば、吉野山の桜をロープウェイから見ただけではなく、山にリフトを設置して桜の中を通ってもらうとか、ジップラインで桜の間を下つてもらうような、いろいろなアイデアがあります。こういうことができるのと若者が金峯山寺を訪れるようになります。この「参り」のコンセプトで、寺社の魅力を若い世代に伝えていきたいと考えています。

廣瀬 インバウンドについては、ど

のように考えておられますか。

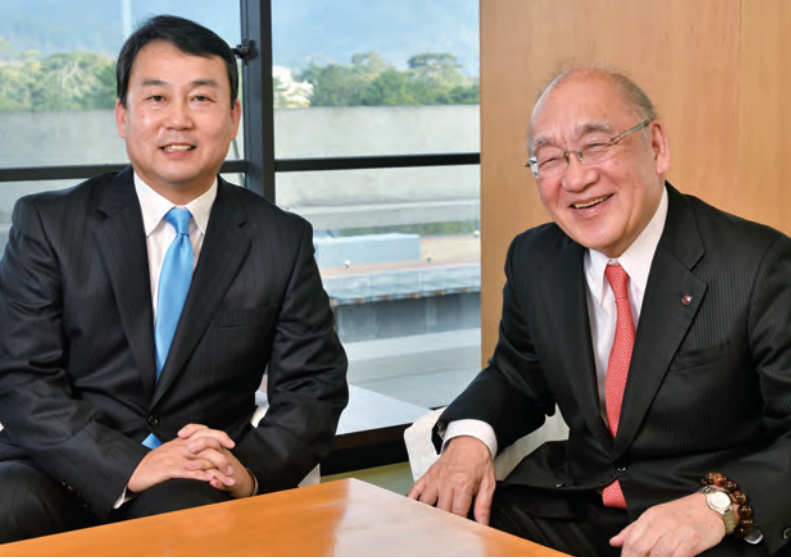
荒井 外国人には空間そのものを文化財として、丸ごと感じていただきたいと考えています。奈良観光で「何がよかったのか」という思い出、つまりエピソードを大切にしています。訪れた場所でのエピソードは経験になります。観光の目的として、訪れて思い出に残る経験をしてもらう。日本はコト消費のバリエーションを増やす必要があります。寺社観光もコト消費ですし、文化財でのコト消費はエピソードになるはずですよ。

廣瀬 今後、奈良県の寺社が担っていくべき役割とは何でしょうか。

荒井 我々行政は寺社の周りでイベントを開催し、彩りのある景観を、地域政策としての環境整備で進めていきたいと考えています。これは日本のメンタリテイの良いところを伝えていくためです。その上で、寺社には情操部分を担っていただきたい。それが奈良県知事として考える寺社振興です。



聞き手／廣瀬崇之
一般社団法人全日本
社寺観光連盟理事。元
内閣府特命担当大臣秘
書官、文化観光リサー
チ株式会社代表



荒井正吾／奈良県大和郡山市出身。東京大学法学部卒業、旧運輸省を経て海上保安庁長官、参議院議員、外務大臣政務官、参議院文教科学委員長などを歴任し、平成19年より奈良県知事